

「人材」の確保・再配分に関する論点 企業や大学等の多様な主体がSTEAM教育や探究力育成に参画するために

- 学校や教員の文化・価値観と異なる民間企業等や大学等の多様な主体や人材を学校教育や子どもの学びに活かすには、学校側の調整コストが大きくかかる。学校側の負担が増大するこうした連携や調整を、現有の人員・体制で進めるのは困難である。
 - 一部の特別な校長や教員の活躍事例を見て、他の多くの学校や教員に同様の取組や役割をそのまま求めることは、学校の多忙化や教員の疲弊につながるうえ、実際にはあまり機能しない。
- 次頁以降の調査研究等からは、民間企業や大学等との連絡調整は、コーディネート人材が中心となって担い、学校の最大のリソースの一つである教員の時間を確保しながら、学校(子ども・教員)と多様な主体が共にWin-Winとなる持続可能で質の高いコーディネーションが求められていることが伺える。
- なお、民間企業や大学等と学校のコーディネート業務はボランティアではなく、仕事として行える予算・制度の構築が必要である。また、コーディネート人材の育成及び質保証(認定)としては、社会教育法等に基づく「社会教育士」の活用が考えられる。
 - 社会教育士は、文科省により令和2年度から始まった、学びを通じて、人づくり・つながりづくり・地域づくりに中核的な役割をはたす専門人材の称号であり、コーディネート能力やファシリテーション能力等を持ち企業やNPO、行政、学校等での活躍が期待されている。

【参考1】コーディネーターの配置と必要性

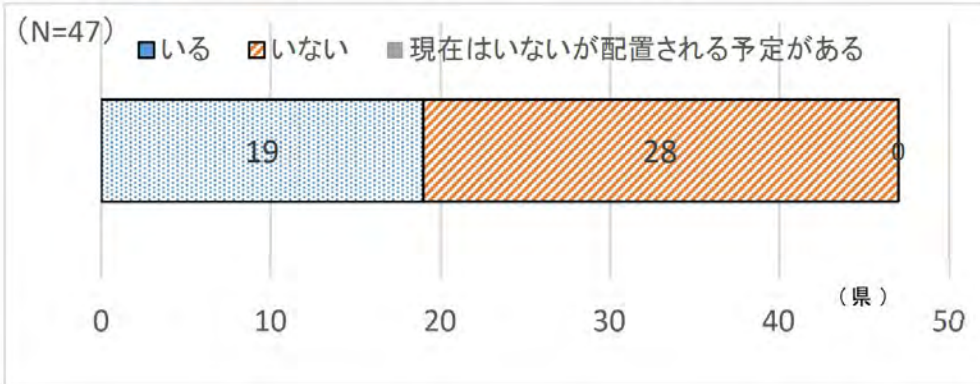
全国都道府県教育長協議会 平成31年3月 地域と学校の連携・協働におけるコーディネート機能の強化・充実 より抜粋

◆本調査におけるコーディネーターの捉え

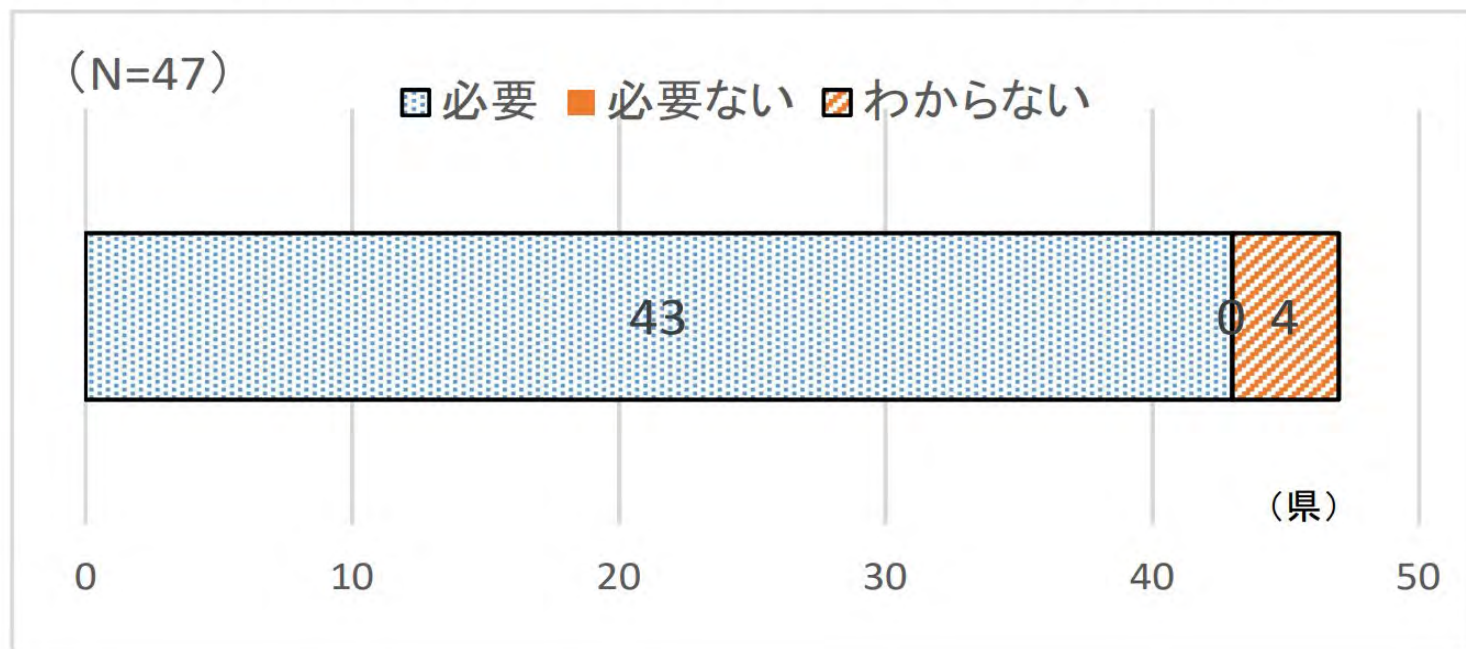
都道府県立学校(高等学校、中等教育学校後期課程、特別支援学校高等部)において、学校における教育や教育環境をより魅力あるものとするため、学校内(生徒、教職員、授業、部活動、学校行事等)と学校外(地域内外の教育資源、行政、大学、NPO、メディアなど)をつなぎ、効果的な学習活動を創出する役割を担うコーディネーター

※コーディネーターには、教職員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーは含まない。

〔図表1〕 コーディネーターの配置の有無



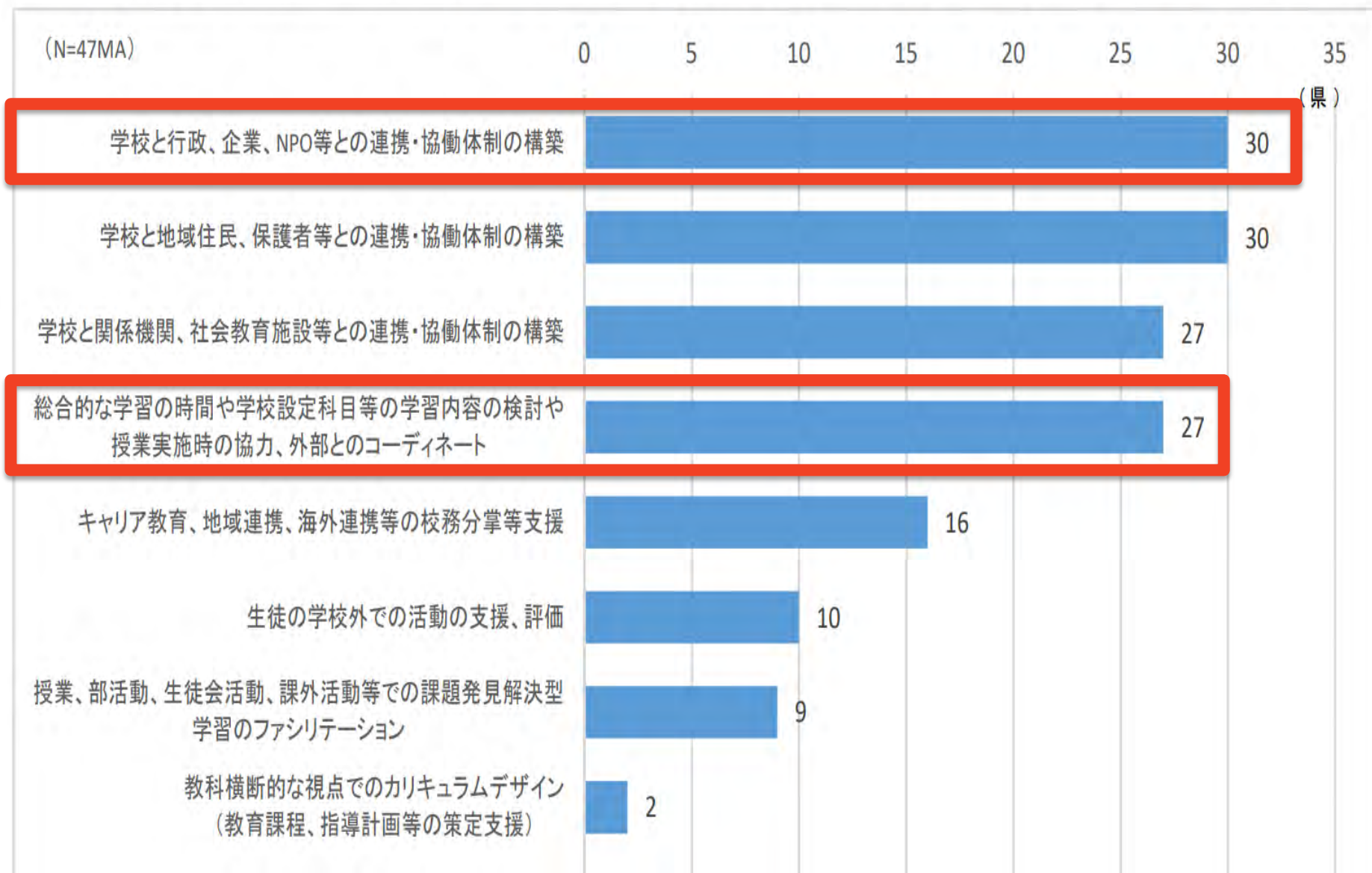
〔図表9〕 コーディネーターの必要性



【参考2】コーディネーターに期待する職務・活動内容

全国都道府県教育長協議会 平成31年3月 地域と学校の連携・協働におけるコーディネート機能の強化・充実 より抜粋

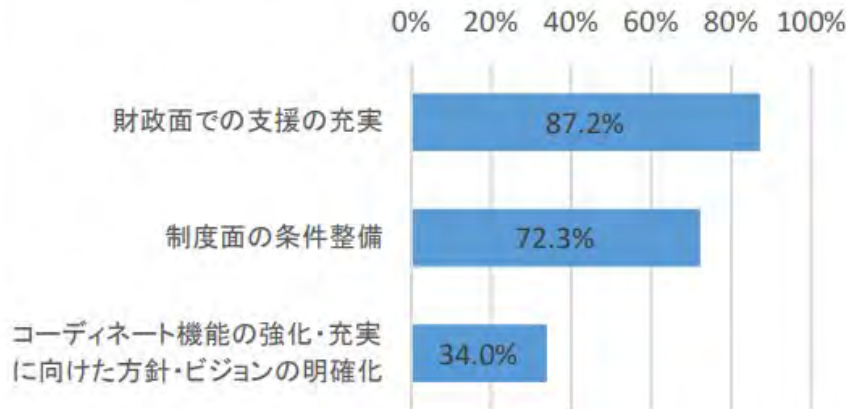
〔図表 10〕 今後コーディネーターに期待する職務・活動内容（複数回答・5つまで）



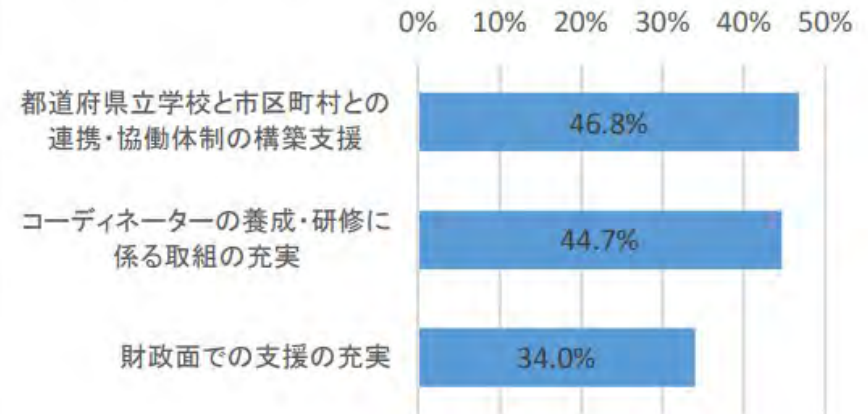
【参考3】コーディネーターの配置上の課題と行政の役割

全国都道府県教育長協議会 平成31年3月 地域と学校の連携・協働におけるコーディネート機能の強化・充実 より抜粋

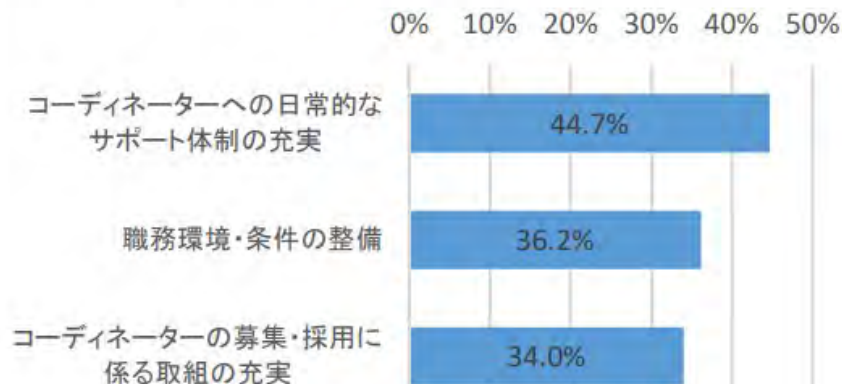
〔図表36〕国に求められる役割
(N=47MA)
(上位3つ)



〔図表37〕都道府県に求められる役割
(N=47MA)
(上位3つ)



〔図表38〕市区町村に求められる役割
(N=47MA)
(上位3つ)



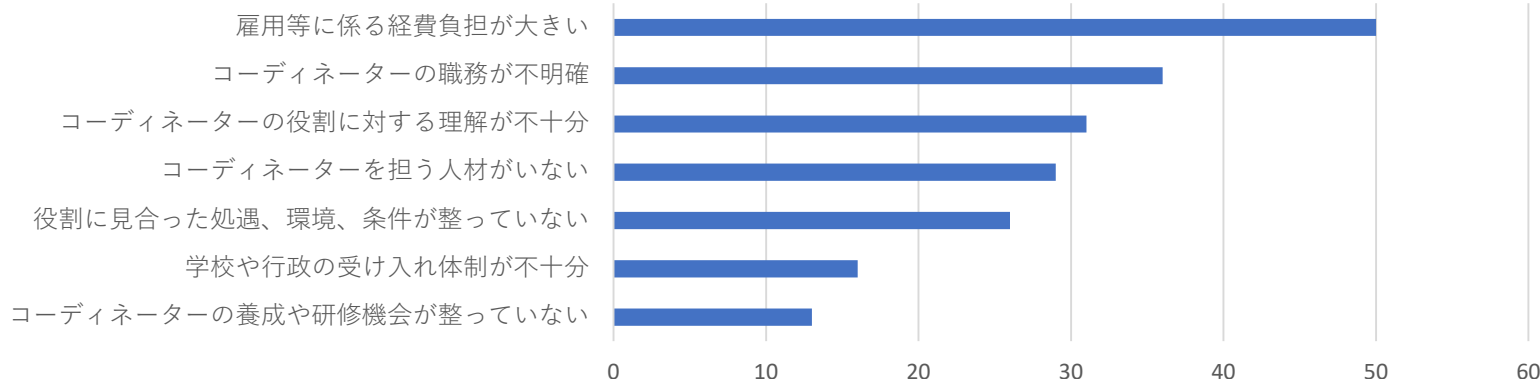
区分	求められる役割	具体的な取組例
国	コーディネート機能の強化・充実に向けた方針・ビジョンの明確化	○国の各種方針に記載する高校改革等において、コーディネーターを明確に位置付ける
	制度等の整備	○コーディネーターの国家資格や認証制度を創設する ○全国規模でのコーディネーター協議会の立ち上げを支援する ・コーディネーターを募集する全国合同説明会（全国の地方公共団体ブース出展）を開催 ・全国のコーディネーターの知見が共有される学び合いの場を構築 ※参考：キャリア教育コーディネーター（経済産業省）、キャリアコンサルタント（厚生労働省） ○コーディネーターの育成・評価システム（育成ガイドライン・ガイドブック等）を開発する ○コーディネーターの導入・活用の手引書を作成し配布する（島根県では、「地域おこし協力隊の受入れに関する手引き（総務省）」を参考にH30年度中に作成予定） ○社会教育実践研究センター（国立教育政策研究所）でコーディネーター対象の研修を実施する ○今後創設される「社会教育士」の制度を効果的に活用する
	財政面での支援の充実	○法律（H32改正の過疎法など）等にコーディネーターの配置を盛り込む ○地方交付税や交付金・補助金等の財源を確保する

【参考4】コーディネート機能の強化・充実に向けて必要な施策

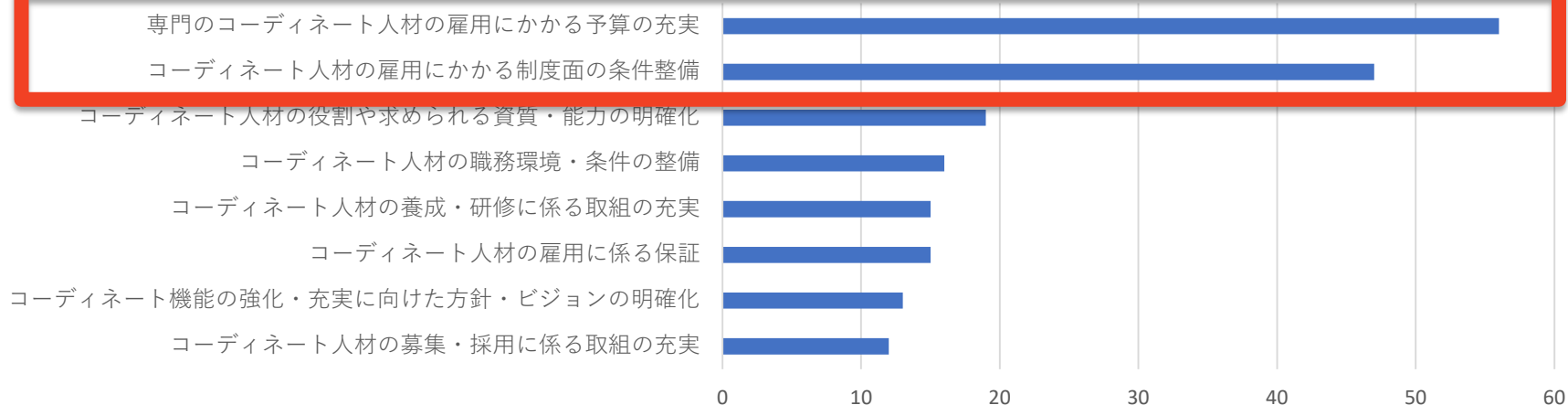
令和2年 高校と地域をつなぐ人材の在り方に関する研究会 第4回会議資料 より抜粋

地域との協働による高等学校教育改革推進事業の採択校・アソシエイト校を対象に実施した、アンケート調査の結果
コーディネート人材を配置する上での課題としては、約**65%**の学校が「**雇用にかかる経費負担**」を選択。次いで、「コーディネーターの職務が不明確」や「学校や行政におけるコーディネーターの役割に対する理解が不十分」を**40%**以上が選択。
地域と学校の連携・協働における**コーディネート機能の強化・充実に向けて必要な施策**については、課題と対応して、「**専門のコーディネート人材の雇用にかかる予算の充実**」が約**73%**、「**専門のコーディネート人材の雇用にかかる制度面の条件整備**」が約**61%**と圧倒的に多くなっている。

コーディネート人材を配置する上での課題 ※3つまで選択可（上位選択肢を抜粋）



コーディネート機能の強化・充実に向けて必要な施策 ※特に必要だと考える3つを選択（上位選択肢を抜粋）



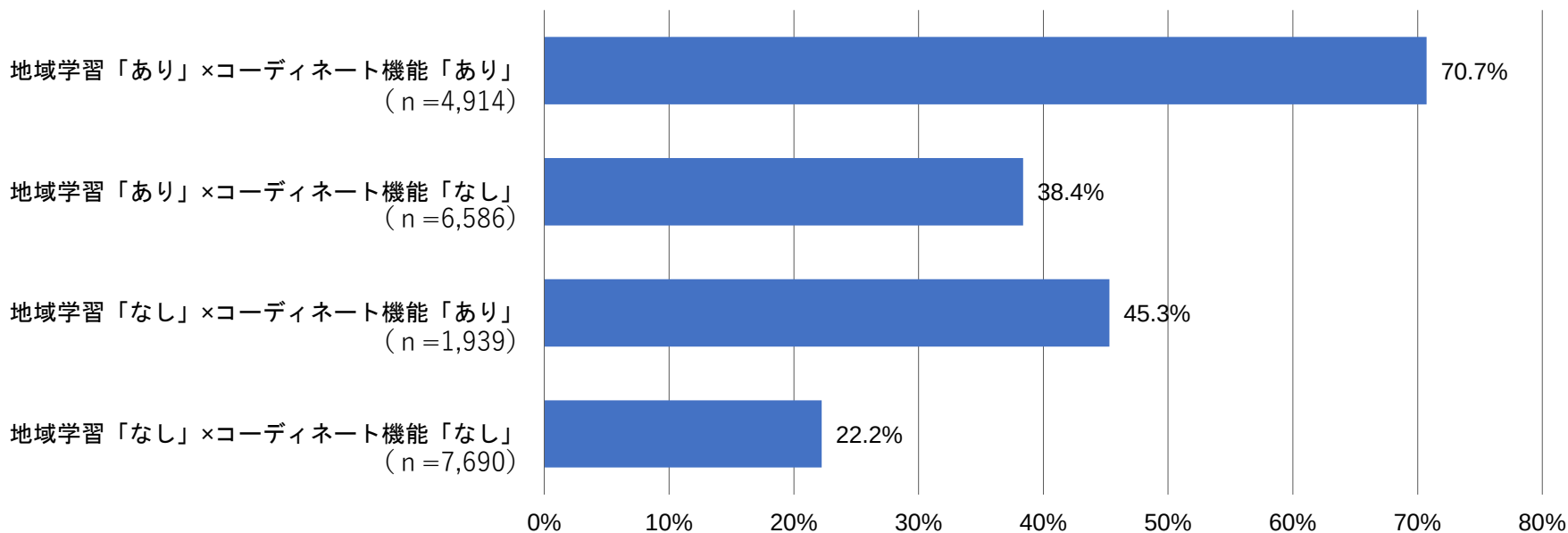
【参考5】コーディネート機能と探究的な学びと生徒の資質・能力の関係

令和2年 高校と地域をつなぐ人材の在り方に関する研究会 第4回会議資料 より抜粋

地域との協働による高等学校教育改革推進事業の採択校・アソシエイト校を対象に三菱UFJリサーチ & コンサルティングが実施した、高校魅力化評価システムのアンケートの結果を分析。

地域課題解決学習を行い、コーディネート機能がある(橋渡しをする大人がいる)場合が、最も生徒の資質・能力が上位に分布する割合が高い。一方、地域課題解決学習を行っても、コーディネート機能がない場合、資質・能力が上位に分布する生徒の割合は、コーディネート機能はあるが、地域課題解決学習を行わない場合より、低くなっている。

地域学習の有無×コーディネート機能の有無×生徒の資質・能力（合計）



注) 「地域学習」：「地域の課題の解決方法について考える」に「よくある」＋「時々ある」＝あり、「あまりない」＋「ほとんどない」＝なしに分類。

注) 「コーディネート機能」：「地域の人や課題など、興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる」に「あてはまる」＋「どちらかといえばあてはまる」＝あり、「どちらかといえばあてはまらない」＋「あてはまらない」＝なしに分類。

注) 「資質・能力合計点」：生徒の資質・能力に関する設問（26問、1（低評価）～4（高評価）の選択肢式）の合計点をz得点化（平均0、標準偏差1の得点に返還）し、0より大きい者を「上位」と定義。

注) $p < 0.001$

【参考 6】高校におけるコーディネート人材の配置の事例

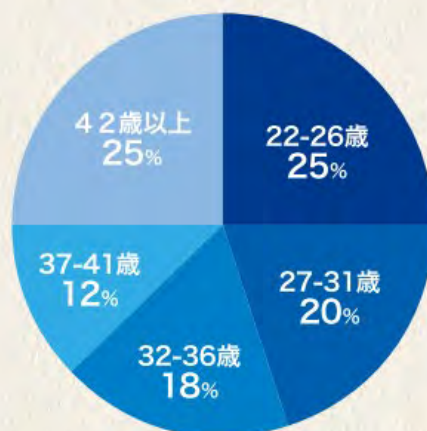
島根県教育委員会「高校魅力化コーディネーターという仕事2020」より抜粋

□ コーディネート人材を配置する高校のある市町村

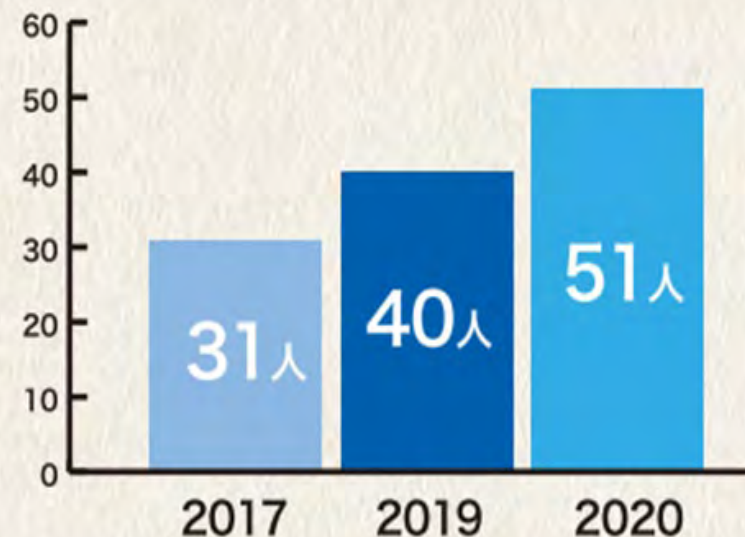


高校におけるコーディネート機能を担う方は20代が多く、協働体制におけるコーディネート機能を担う方はある程度社会人経験を積んだ方が多い傾向にあります。

□ 年齢



□ 人数推移



協働体制におけるコーディネート機能

- 組織体制の構築・運営（ビジョン・計画づくり、事業・会議の運営等）
- 外部資源獲得（ふるさと納税、寄附等）
- 大学・民間企業等との連携・協働 など



島根大学 令和3年度「社会教育主事講習（地域教育魅力化コーディネーター育成コース）」パンフレットより抜粋

本学の社会教育主事課程は、主体的、対話的、協働的、探究的な学びを通じて、学校や地域における「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」に生かせるマネジメント能力、コーディネート能力、ファシリテート能力を身につけた「学びの専門人材＝社会教育士」を育成します。また、島根大学履修証明プログラム「地域教育魅力化コーディネーター育成コース」を併設し、社会に開かれた教育課程、学校と地域の多様な主体とのつながりや仕組みづくりに取り組む地域教育魅力化コーディネーターを育成します。

- ◆学校と地域の協働に重点化したカリキュラム！
- ◆オンラインを活用した対話的、協働的、探究的な学び！
- ◆現役実践者と大学教員による実践知と学術知の融合！
- ◆学びながら実践する伴走型演習ゼミ！

- ◆ **生涯学習概論**
(地域教育概論) ⇒ 地域学校協働活動や学びを通した入づくり等をめぐるために必要となる社会教育・生涯学習の基盤となる知識を学びます。
- ◆ **生涯学習支援論**
(地域学習支援論) ⇒ 地域資源を活かした探究的な学びや地域学習に関する教育活動、学習プログラムの編成、ファシリテーション技法等を学びます。
- ◆ **社会教育経営論**
(地域教育経営論) ⇒ 多様な主体と連携しながらプロジェクトや課題発見解決等をめぐるためのマネジメント能力を磨きます。
- ◆ **社会教育演習**
(地域教育演習) ⇒ 地域教育に関する課題を設定し解決に取り組みプロジェクト学習を通して、総合的な実践力及び探究的に学び続ける力を磨きます。

各科目2単位（100分×14コマ）
詳細はウェブシラバスを参照すること。

マネジメント能力
(仕組みづくり)

ファシリテート能力
(学びづくり)

コーディネート能力
(つながりづくり)

修了者には、「社会教育主事講習」の修了証書と「地域教育魅力化コーディネーター」の履修証明書が交付されます。



地域のヒト、コト、モノの情報や地域の想いを共有し、学びを通して新たな人との出会いや持続可能な地域、魅力的な学校教育をつくるコーディネーターとしての機能が期待されています。

こんな皆さんにおすすめです！

学校と地域の多様な主体とのつながりづくりに必要なコーディネート能力や社会に開かれた教育課程、探究学習などの設計やファシリテートのスキルが身に付きます。



地域づくりや地域の課題解決に取り組む方には欠かせない、行政や住民等との連携・協働をスムーズにする「学び」のスキル・ノウハウが体系的に身につきます。



企業が地域とともに持続的に発展していけるよう、地域の課題解決やSDGsの推進にも積極的に関わっていきたいという方、特に企業のCSR担当の方におすすめです。



子供の主体的・対話的で、探究的な学びの場や、社会に開かれた学校づくりを進めていくために、地域の人と連携したいと思っている方におすすめです。



講師紹介 (一部) 開講するとレギュラー、ゲスト合わせて30名の“学びのサポーター”が登場します!



岩本悠
(一財)地域・教育魅力化プラットフォーム
代表理事
島根県 教育庁 教育魅力化推進室



豊田 庄吾
海士町役場 人づくり特命担当
ひと・学び・流通づくりジェネレーター
公益財団法人教育委員会



宮野準也



中村 伶詞
 品牌文化 創造學研究科（教職大学院）
 准教授



奥田麻依子
島根県 教育庁 教育魅力化支援員
(一財)地域・教育魅力化プラットフォーム



田中理恵
NPO法人てごねっと石見 理事
(一財)地域・教育活性化プラットフォーム